

環境調査結果のお知らせ

令和7年5月29日13時から浦ノ内湾の環境調査を実施しました。

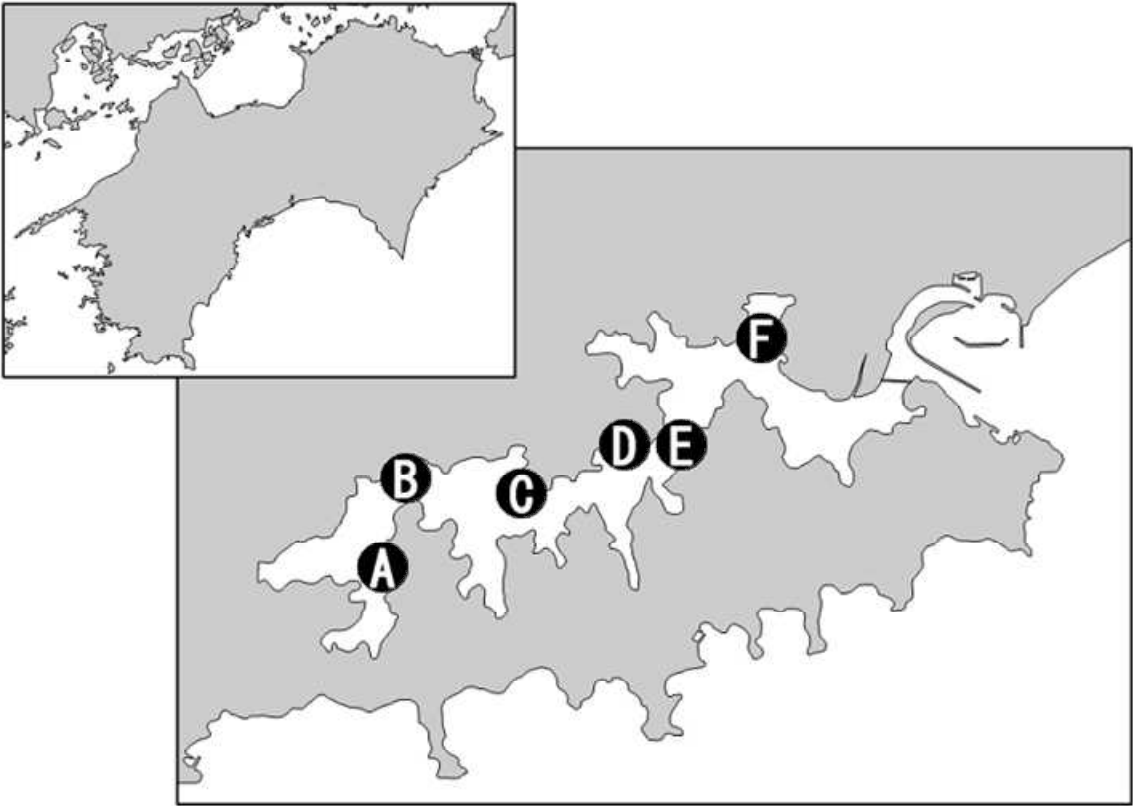
概況

検鏡の結果、魚類に対して有害なヘテロシグマ・アカシオが最高で1,600 cells/mL、ケラチウム属が最高で1,800 cells/mL確認され、これらプランクトンが原因と考えられる濃い着色が鳴無から目ノクソにかけて見られました。ケラチウム属は100 cells/mL以上になると、養殖魚の餌食い悪化が懸念されます。

また、目ノクソ、光松及び大鹿では底層が貧酸素状態になっていますので注意してください。

海や養殖魚、貝類の状態に不安や変化を感じた時は、良く洗ったペットボトルに海水を汲むなどして、水産試験場か中央漁業指導所まで連絡してください。

調査点 (透明度) 【調査時刻】	海洋環境				プランクトン		
	深度	水温	塩分	溶存酸素	ヘテロシグマ・ アカシオ	ケラチウム 属	珪藻
	(m)	(℃)		(mg/L)			
A 鳴無 (1.3m) 【13:45】	0	22.7	18.4	13.6	1,600	1,140	-
	2	24.3	28.7	12.4	120	740	-
	5	22.9	30.6	6.1	0	26	-
	底層 7	23.3	31.4	5.0	0	3	-
B 中学校前 (1.8m) 【13:51】	0	24.5	25.2	12.4	0	110	10
	2	23.7	29.3	12.0	0	900	80
	5	22.1	30.1	6.9	0	28	20
	底層 10	22.9	31.7	5.0	0	1	0
C 目ノクソ (1.4m) 【14:03】	0	23.9	20.7	14.5	60	1,800	-
	2	22.9	28.8	11.0	0	600	-
	5	22.0	30.1	7.4	0	11	-
	10	22.6	31.9	5.4	0	1	-
	底層 14.5	21.2	32.6	2.6	0	0	-
D 光松 (2m) 【14:14】	0	23.8	23.5	11.6	520	27	40
	2	22.8	28.8	10.3	10	63	30
	5	21.9	30.4	7.2	0	4	30
	10	21.8	32.1	4.9	0	0	10
	底層 15	21.1	32.6	2.1	0	0	0
E 大鹿 (1.9m) 【14:20】	0	23.7	22.4	11.5	220	8	-
	2	22.5	29.1	10.0	0	110	-
	5	21.9	30.4	7.2	0	6	-
	10	21.8	32.0	4.8	0	0	-
	底層 15	21.1	32.6	2.2	0	0	-
F 水試小割前 (2.8m) 【13:26】	0	22.4	24.3	9.6	1,550	4	-
	2	22.7	28.8	9.1	260	21	-
	5	22.0	30.5	7.6	0	0	-
	底層 7.5	21.9	31.0	6.9	0	0	-



- A: 鳴無 D: 光松
B: 中学校前 E: 大鹿
C: 目ノクソ F: 水試小割前

参考：有害プランクトンの種類と注意及び警戒基準

有害プランクトン	被害	注意基準（※1）	警戒基準（※2）	主な赤潮発生時期 ※3		
				浦ノ内湾	野見湾	宿毛湾
<i>Karenia mikimotoi</i> (カレンシア・ミキモトイ)	魚類等のへい死	100 cells/mL	1,000 cells/mL	5～8月	6～8月	—
<i>Chattonella</i> spp. (シャットネラ属)	魚類等のへい死	10 cells/mL	100 cells/mL	6～8月	—	—
<i>Cochlodinium polykrikoides</i> (コクロディニウム・ポリクリコイデス)	魚類等のへい死	10 cells/mL	100 cells/mL	—	2～4月	5～6月
<i>Heterosigma akashiwo</i> (ヘテロシグマ・アカシオ)	魚類等のへい死	5,000 cells/mL	50,000 cells/mL	3～12月	4～8月	4～11月
<i>Dictyocha</i> spp. (ディクチオチカ属)	魚類等のへい死	—	5,000 cells/mL	6～7月	4月	—
<i>Takayama</i> spp. (タカヤマ属)	魚類等のへい死	—	10,000 cells/mL	8～9月	—	—
<i>Ceratium</i> spp. (ケラチウム属)	魚類の餌食い悪化	100 cells/mL	—			
<i>Heterocapsa circularisquama</i> (ヘテロカプサ・サーキュラリスカマ)	二枚貝のへい死	—	500 cells/mL	8～11月	—	—
<i>Alexandrium</i> spp. (アレキサンドリウム属)	二枚貝の毒化	10 cells/mL	100 cells/mL	—	1～4月	3～5月
<i>Gymnodinium catenatum</i> (ギムノディニウム・カテナータム)	二枚貝の毒化	—	1 cell/mL	—	—	2～7月

※1 注意基準：餌食いの悪化、警戒基準に達する恐れのある密度
※2 警戒基準：魚類及び二枚貝のへい死 並びに 二枚貝の毒化が想定される密度
※3 あくまで目安なので、水産試験場・漁業指導所の広報や養殖魚の状態に応じて、慎重な養殖管理をお願いします。